

学校だより

以下に記載の学年は、各学校行事実施時のものである。

2022年5月から7月 始めまでの資格試験一覧

- この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。
- 5月23日 溶接技能者評価試験（JIS 検定）（3年溶接科）
- 6月17日 計算技術検定（全学年）
- 6月17日 機械製図検定学科 7月2日 実技（3年生選抜者）
- 6月24日 情報技術検定（3年電気科）
- 6月30日 技能照査実技（3年機械科）

地区別懇談会



4月19日、地区別懇談会を開催した。日専校へは全国各地から入学して来ており、この会は、在校生の出身中学校がある、東北から九州までを16グループに分けて、新入生が同じ出身地区の先輩と初顔合わせをする学校行事である。

自己紹介や先輩から後輩への学校生活のアドバイスの後、クイズ・ビンゴ・ダーツなどで親睦を深めた。各教室を会場として、リーダー生徒の司会進行で楽しい時間を過ごした。新入生はこの行事を通じて同郷の先輩を知り、心強い様子であった。

3年生事業所交流セミナー

2年次後期から3年次4月22日の最終回まで、半年かけて6回の事業所交流セミナーを実施した。生徒の基幹技術・技能員養成の一環として、



各事業所から講師を招き、配属前の生徒への特別講話を実施するもので、総務・上級専任職・卒業生・技能五輪経験者などから、企業に求められる人材・職場の人間関係、今後のキャリアや私生活についてなど、幅広い視点で興味をひくような話やアドバイスをいただいた。

コロナ禍で事業所訪問などができないなか、職場の情報や考え方、自分に不足している部分やめざす姿など、大きな刺激を受け、前向きに真剣に取り組みきつかけができた。4月より18歳成人が適用され、若者の責任がますます大きくなるなか、これから人財作りに取り組んでいきたい。

中学校先生対象募集説明会

4月26日に本校にて、中学校の先生を対象とした募集説明会を実施した。本校に来校しての参加は茨城県内から6校、オンラインでの参加は県内から11校と県外から3校で、合計20校に参加いただいた。

説明会を行い、その後、本校グループとオンライングループに分かれて、生徒が校内（実習場と寮を中心）を案内した。参加された先生方からは多くの質問をいただき、それにも生徒が的確に応答し、活発な質疑応答が行われた。

今後、12月の入学試験に向けた募集活動として、①各中学校を個別訪問して先生へ募集説明、②各中学校の3年生全員とその保護者へ進路説



明会、③本校に興味がある受験生を招いて学校説明、見学、実習体験を行うオープンスクールなどを計画している。

科技高スクーリング授業開始

4月28日から科学技術学園高校（以下「科技高」、本校は東京都）による今年度のスクーリング授業が開始された。1年生にはこの初めてのスクーリングで、科技高の入学許可書が手渡された。

日専校は科技高と技能連携している。この「技能連携制度」は、学校教育法に定められており、日専校（企業内学校）に在籍しながら科技高にも入学し、3年間で2つの学校の卒業資格が得られる。科技高の学習と通科目の授業を行うスクーリングと

レポート提出、日専校の学習としては、日専校の教員による主な普通科目の授業と専門科目の授業（座学と実習）を行う。この専門科目はそのまま高校の学習として認められ、履修単位として取得できる。日専校と科技高の技能連携によって、二重学習が軽減され、専門的な知識・技能を身につけながら、3年間の高校生生活を送ることができる。



新体力テスト

5月16日に新体力テストを実施した。当日は雨天だったため、身長・体重などの身体測定と、20メートルシャトルラン以外の体育館種目に限って行った。反復横とびや長座体前屈など、通常の種目に加え、日専校独自の学校特別指定種目である、腕立て伏せ、垂直とびも行った。

（5頁へ続く）

(4頁の続き)

50メートル走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの屋外種目と20メートルシャトルランは、その後、体育の授業内で実施した。

生徒たちは体育や部活動で鍛えた運動の成果を大いに発揮し、自分の限界に挑戦していた。貪欲に記録に挑戦する姿は立派であった。



職員工場訪問 (直近卒業生フォロー)

「事業の発展は人にあり」の理念の下、日立の技能者を育てるため、日専校は日々生徒教育を行っている。3年間、多感な年齢の彼らと衝突しながら毎日を通し、卒業を見送ると、どうしても情が湧く。だが、その奮闘が実を結んだか確認できる機会はなかなかない。

例年、5月に入社1・2年目を対

象とし、日専校の職員が卒業生の職場を訪問して近況を伺っている。このとき、職場の皆様のご指導で、会社が目まぐるしく「人財」になりつつあれば、少し安堵できる。そして、心身ともに健康でいてくれれば、なお嬉しい。

教師として果たすべき使命を肝に銘じながら、生徒たちの成長を願い、今日も向き合う。いつの日か、「人財」として立派に活躍していると風の便りがあったなら、これ以上喜ばしいことはない。

3年溶接科溶接技能者 評価試験(JIS検定)

5月23日、本校の溶接実習場を会場に日本溶接協会「溶接技能者評価試験(JIS検定)」が開催された。これは、新規受験者のほか、資格更



新のために溶接技能の確認を行う試験であり、受験者総数約80名で、3年溶接科の生徒12名も受験した。

生徒は、既に昨年10月に受験をしており、手溶接基本級(A-2F)と半自動溶接基本級(SA-2F)の資格を取得している。今回は新たに、ステンレス鋼溶接基本級(TN-1F)と半自動溶接専門級(SA-2V)の2種目を受験した。両種目とも、正確で細かな溶接部のコントロールが必要で難易度が高い。

また試験本番では、大勢の受験者が同席するなど緊張感があるなか、手の震え、若干のミス等が見られたが、普段、学校で行っている溶接実習の成果がみられる溶接ができた。試験の可否は、学科と実技作品の外観検査、曲げ試験の結果で判定し、7月末頃に発表される。

避難訓練

6月3日、本年度最初の避難訓練を実施した。同訓練は6月に学校で、11月に寮で、年度内に2回実施している。今回の訓練内容は次の通り。

「午前11時40分校舎裏、変電設備より火災が発生、現在、裏側土手に燃え移り、校舎へも延焼の恐れがある」この想定した火災状況を、校内放送にて学校・寮職員及び生徒に周知させ、各々自身の安全を確保しながら、予め決められた場所へと避難を開始した。加えて、日立消防署に協力をいただき、職員1名が想定火災状況を119番通報する訓練も実施した。避難後は、それぞれのグループ毎



に人員を確認し、消防隊長(学校長)へ報告して訓練を完了した。今回の訓練では、例年通り、5分以内に避難を完了できた。これからも万が一の有事に備えて、定期的に避難訓練を実施する予定である。

前期中間試験

日専校は二期制であり、年間に定期試験が前期と後期に各2回ある。6月6日、7日の2日間、今年度最初の定期試験の前期中間試験を実施した。各部が公式大会を挟む厳しい日程であったが、生徒は勉強と部活動を両立させ、計画的に学習を行って試験に臨んだ。特に1年生は入学して初めての定期試験であった。中学時代は自宅で保護者のフォローがあったが、日専校では寮生活が始まり、自立して学習する必要がある。

その状況のなか、各部、各クラスで、生徒自身が自主的に学習会を行い、協力して試験対策を行っていた。試験後には授業で答案が返却、問題の解説が行われ、それを踏まえて生徒は試験の振り返りを行っている。次回、9月に実施する前期末試験に向けた新たな計画を行い、ステップアップを目指して、引き続き学習に取り組んでもらいたい。

1年生成沢霊園 戦災殉職者慰霊

6月10日、日立事業所の「戦災の日」に合わせ、1年生による成沢霊園への慰霊参拝を実施した。日専校から成沢霊園までは徒歩で移動。現地で戦災の説明を受けた後、「諸精霊之碑」および戦没者氏名が記された「陶輪碑」に参拝し、戦没者慰霊



(5頁の続き)

を行った。

この慰霊参拝を通して生徒たちは、日立の戦災の歴史を知るとともに、平和のありがたさを実感している様子であった。時代とともに戦争の記憶が薄れゆくなか、日専校の生徒たちには、平和への思いを新たにすため、成沢霊園への慰霊参拝は今後も継続していく。

技能五輪

旋盤職種茨城県大会

6月11日、日専校機械実習棟にて2022年度技能五輪旋盤職種茨城県大会が開催された。この大会は、中央職業能力開発協会（JAVAD）が主催する技能五輪全国大会へ出場する権利を得るための最初の大大会である。県大会の課題内容は国家技能検定、機械加工職種、普通旋盤



作業2級課題を標準時間3時間で製作するものであり、普通旋盤作業において基本的な要素が含まれている課題である。

今年度、本校から県大会に出場した選手は、3年機械科、技能五輪部に所属する郡司煌都である。大会当日は、職業能力開発協会担当者の立ち会いもあり、通常とは異なる雰囲気的な課題製作に挑んだが、大きなトラブルも無く順調に加工を進め、標準時間内で完了できた。

3年機械科 技能五輪部 郡司煌都

今回の茨城県大会では、普段どおりの加工をすることができました。大会が始まるまでは、多少緊張していましたが、始まってみると平常心で課題を組むことができました。次は7月30日、31日に二次予選会があるので、しっかりと準備し、全国大会へ出場ができるよう、日々訓練していきます。

ソフトテニス部

全国高校総体茨城県予選結果

全国大会出場決定！

6月10日、11日、13日の3日間、標記大会に臨んだ。エースペアの本間（2年機械科）・大内雄（3年溶接科）ペアは、直前6月4日に関東高校大会（東京都）があり、2回戦敗退であったが、この全国大会県予選につながる取り組みができ、インターハイ出場への思いが強くなった。チームとしても、創部初の団体戦県ベスト4となった関東大会県予選で、



準決勝で惜敗した王者霞ヶ浦高校との決勝再戦をめざした。

6月10日は団体戦ベスト8までの日程で、順当にベスト8に進出した。しかし内容が悪く、翌日の個人戦に不安を残した。6月11日の個人戦、1年生ペアの大内拓・鈴木玲ペアが第4シードの明秀日立高校のエースペアを下す快進撃でベスト8に進出本間・大内雄ペアも霞ヶ浦のレギュラーペアを破って、前回を上回るベスト8に進出した。不安を払拭できた試合内容であった。準々決勝、勝てばインターハイ出場、しかも創部初どころか2ペア出場の快挙。だが両ペアともベスト4に勝ち上がることはできず、順位決定戦へ。出場96ペア中の6位までがインターハイに出場できる。準々決勝敗退4ペアで争う総当たりのリーグ戦。結果、本

間・大内雄ペアが第5位でインターハイ出場、大内拓・鈴木玲ペアが惜しくも第7位であった。

最終日、団体戦ベスト8からの日程。準々決勝は常磐大高校で、2-1で勝利して準決勝に進出した。準決勝は同地区で大きな差があった明秀日立。1番目の大将戦で本間・大内雄ペアが先勝。2番目を落とし、3番勝負へ。個人戦大躍進の1年生ペアが一時、ゲームカウント2-1でリードするが惜敗。霞ヶ浦との再戦叶わず第3位となった。

昨年の新人戦は県北地区で5位、県大会で2回戦敗退だったチームが、ひと冬越えて大変良く成長し頑張った。コース分けをし、半年後を見据えて強化した練習が実を結んだ。生徒はソフトテニスを通じ、強豪校でなくても「やればできる」を感じてくれたと思う。その経験を、今後の学校生活や将来の仕事に活かして欲しい。

校内環境整備作業

月に1回のペースで、生徒による校内の環境整備を実施している。目的は3点ある。

1. 学校をきれいに生活しやすくする
2. 考動アクションの活性化の一環で、生徒たちが主体的に学校の環境整備を行う
3. 5S3定の原理原則を学び、入社後の安全考動に繋げる

RKY実施後に、各活動エリアでリーダーが指示を出し、安全第一で

整備活動を開始した。

3年機械科 小林勇輝 リーダー

今回は自分達で掃除をする場所を決め、事前に現場周辺の状態を把握して、リーダーの選出や、各場所の担当クラスを決めて5S活動を行いました。5月に行った1回目の活動では、事前準備が不十分でしたので、今回6月の2回目では前回できなかった事前準備をしっかりと行い、安全に校内をきれいにすることができました。

このような結果を得られたのも協力してくれたメンバー、サポートをしてくれた諸先生方のお陰だと思います。配属先での実習までにあと数回は活動があるので、より良い環境にするためにも、生徒会等と連携をとってさらに活発に行っていきたいと思えます。

(7頁へ続く)



(6頁の続き)

1年生溶接実習体験

6月20日、21日に1年生が各クラスに分かれ、1日の溶接実習体験を行った。溶接とはどんなものか、どんな製品に用いられる作業であるか、溶接作業における危険要因等を学んだ後、2、3年生溶接科の生徒による指導を受け、実際に溶接作業を体験した。

実習体験当日は気温も上がり始めたところであり、保護具を装着するだけでも汗が出るなか、被覆アーク溶接・半自動溶接を半日ずつ交代で行い、初めて行う溶接作業に緊張があるなか、大粒の汗を流しながら、夢中でアークを発生してくれた。

体験をした感想として「溶接をしている先輩の姿がカッコいい」「始めて溶接をしたが興味を持った」「練習をするたび上手にビードが引けるようになり嬉しかった」「暑さが厳し過ぎる」等を話してくれた。



日専校安全教育

日専校には「安全」の授業と「安全教室」がある。安全はすべての事業所で最優先に取り組んでいることであり、生徒は事業所に入学後、安全を考えて仕事ができることを目的とし、日々、安全授業と実習に取り組み、考動している。事業所でのモノづくりを縦串でとらえると、安全は横串であり、在学中から安全意識を強化し、入社後の安全考動に繋げ

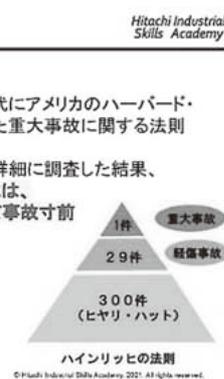
習をするたび上手にビードが引けるようになり嬉しかった」「暑さが厳し過ぎる」等を話してくれた。今回の体験を通し、10月に実施される1年生のクラス分けに向けた本人の希望考察の一因としてもらうのが目的となる。暑いなかでの溶接実習体験であったが、体調を崩す者怪我をする者も出ず、無事に終了することができた。



ていく。

1. 安全教育の目的

- ①安全に強い日専校になる
- ②生徒全員が日々安全考動を実践する(危険に対するものの方と考え方を醸成し、安全を考えて行動できる)



ハインリッヒの法則

内容
ハインリッヒの法則とは、1920年代にアメリカのハーバード・ウィリアム・ハインリッヒが提唱した重大事故に関する法則のこと。
ハインリッヒは多くの労働災害を詳細に調査した結果、1件の重大事故が起こった背景には、軽微で済んだ29件の事故、そして事故寸前の300件の異常が隠れているという法則を導き出した。ハインリッヒの法則は「1:29:300の法則」とも呼ばれている。

熱中症とは

熱中症とは、体温が上がり、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温の調節機能が働かなくなったりして、体温の上昇やめまい、痙攣、頭痛など様々な症状をおこす病気である。



2. 安全教育の内容

- ①マインド教育
・安全の原理原則を知る。なぜ安全が必要なのか。5S3定の意味。ハインリッヒの法則。作業着や保護具の重要性など
- ②知識教育
・学校や工場での災害事例から安全への取り組みを知る。事例を参考に、環境面、管理面、行動面で安全を検証する
- ・日常生活での安全を考える。学校、寮、部活動エリアでのハザードマップを作成し、どこに災害のポテンシャルが潜んでいるかを考えて共有する
- ・交通安全の観点として、自転車の乗り方、車と人との危険性の認識などを考えて共有する
- ③スキル教育
・現場で使用する工具を使用し、使い方、リスクなどを検証する
- ・カッター、脚立、リヤカー、台車など道具、工具を使用し、どのように使用するの正しいかを認識する
- ④危険体感教育
・クラス単位で危険体感研修を受講し、重量目測や、回転物の危険などを体感する

3. 具体例(すべて生徒が作成)

- ①KYTシート
- ②事故事例から学ぶ自転車の通ルールと安全運転スライド
- ③ハインリッヒの法則資料
- ④熱中症とは

日専校職員投稿

後輩の育成にご協力をお願いします
鈴木 常男

今年の3月に卒業した皆さんが社会人としてスタートしました。「何とかかな。大丈夫かな」先輩の皆さんも同じような期待や不安な気持ちで入社したことと思います。

現在、日専校では座学や実習を通して、安全教育やRKY等の実践も行い、安全に仕事ができるように指導しています。また、考動アクションと称して、生徒が自ら考えて行動し、それを振り返ることで、改善成長し、職場に対応できるようにしています。

しかしながら、個人差があるのも事実です。直近の卒業生については、学校に入ってくる情報のなかには、うまく職場にフィットして前向きに仕事をしている人が多い一方で、年代を越えたコミュニケーションがうまく取れないなどで、悩んだり、困ったり、苦労している人もいます。学校でも卒業後のサポートで、できるだけ多くの卒業生が生き生きと仕事をしてもらいたいと思っています。職場の先輩方におかれましても、現在は新型コロナの影響で対応が難しいこともあるかと思いますが、後輩への厳しくも温かいご指導を引き続きお願いいたします。

部 活 訪 問

テニス部関東大会 茨城県予選ベスト4



県3位表彰後

輝かしい結果の裏に辛い思いを全体が味わい手に入れた部活の事例を紹介したいと思います。

団体戦過去最高は2017年の全国大会県予選ベスト8。

常に人気運動部上位にランクインするテニス部。

その知名度の高さから『爽やか・軟弱・ハードさに欠ける』等、様々なイメージがあることだろう。そのイメージは取材を通じて一蹴されることとなる。

可能な限り取材を重ね、生徒たちのリアルな感情を聞くことが実現した。ぜひ、期待して読んでいただきたい。

たい。

まずは顧問である豊田先生からテニス部の紹介をしていただきます。

部員は合計23名。小・中学校からの経験者をはじめ、ほぼ初心者部員も在籍。インターハイ出場を意識し、高い目標



名将・豊田顧問を意識した目標を掲げる部員も存在する。活気ある部活です。(豊田)



3年生の紹介



することが出来なかった。現在は3年生らしく頼もしくもなってきた。

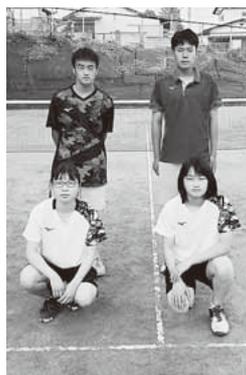
2年生の紹介



個性豊か。私生活についても仲良く和気あいあいとしている。



1年生の紹介



4名在籍。男子2名、女子2名と少ないながらも育成に力を入れていきたい。女子部員は創部初のマネージャーも兼務している。(豊田)

コロナウイルスの影響

世界的に猛威を振るう中、科技高テニス部もエース前衛である大内主将が濃厚接触者となり出場できないという窮地を迎えた。



とても悔しい思いがあった。しかし、普段の練習を見て、部員を信じて待つしかないと思った(大内主将)。

また高校生の彼にこのような思いをさせるコロナを心底憎いと感じた。主将不在の中、テニス部はどんな気持ちで県大会に臨んだのであろうか。



キャプテン代理としての責務、不安を抱えながら、最後は自身を信じてプレイに臨みま



1年生で2番手という緊張の中、顧問からのアドバイスを思い出しながらプレイに集中した。経験が少ないながら結果を出せたことが嬉しい(2番手・大内)。



主将の為にも『何としても勝たなければ』というプレッシャーに押し潰されそうになった。ペアと話し合い協力して乗切り、勝ってチームに貢献できたことが良かった(2番手・鈴木玲)。

(13頁の続き)



なかつた。ペアの支えが大きく伸び
伸びプレイすることができた(繰り
上げ出場・金長)。



識した(3番手・大越)。



自分自身も楽しめるよう臨みたいと
思った(3番手・鈴木唯)。
もつと我儘でいい年頃の皆が主将
に『良い報告を』と考えていること
が印象的であった。ベスト4、県3

位という快拳の裏側、ほっとした心
情、何よりも喜びに満ちた表情は冒
頭の写真からも伝わっているであ
らう。

関東大会に臨む

個人戦では関東大会に出場する
(大内) (本間) ペア。その意気込み
を伺う。



今ま
で支え
てくれ
た人の
想いも
背負い、

一生懸命プレイしたいと思えます
(大内主将)。



貴重な経
験となるの
で一戦一戦
を大切に、
ひとつでも
多く勝てる
ように臨み
たい(本間)。

結果は1回戦を勝ち進み、残念な
がら2回戦で敗退したものの、得る
ものが多い
大会だった
と2人は言
う。



関東大会の様子
・1回戦④-0豊南高校(東京)
・2回戦1-④健大高崎

今大会を終えて

控えてはあるが部を支えた功労者
の一人である朝倉君は、重責を2年
1年に背負わせてしまったことを悔
いていた。



結果的に
3年生が出
場できなか
った団体戦
表舞台の裏
側では様々
な思いがあ
った。

今後の取り組みについて



通常の練
習時間が他
校と比べて
短い、短
時間で効率
良く目的を
明確にして
指導するよ

取材を通して

今回の取材を通して部員の意識
人への思いやり、困難時にもかかわ
らず前向きな姿勢を強く感じました。

うに心掛けています。精神的な面
でも指導を行い、部活を通して立派な
社会人になつてほしいと願っていま
す。
今回の結果がインターハイ県予選
に繋がるような取組をさせてあげた
と思います(豊田)。

顧問の豊田先生に関しては厳しい
ながらもチームへの愛情、個々をプ
レイヤーとしてだけでなく、ひとり
の人間として向き合いながら接して
いるのが何え、生徒から支持され
ているのが納得しました。
この記事が皆様に届く頃、先述で
顧問が『インターハイに繋がる取組』
と述べられていたが、それが本当に
現実となる。次号にも期待してい
たい。

鈴木 光彦(78卒・電線)